

めざすべきまちの将来像【2035年（10年後）の将来像】

「恵まれた歴史と文化を誇りに、地域の力で居住の魅力と活力を生み出す堺区」

基本方針 1 堺区の魅力が世代を超えて伝えられ、郷土愛が育まれていること

施策1-1 歴史文化に触れる機会を創出し、魅力を伝える意識を醸成します

施策1-2 新たな魅力発信ツールを活用し、誇りにつなげる環境を整備します

- ・堺はまだ海外の人に知られていない隠れ名所的な要素がある。歴史文化がたくさんあり、何かきっかけがあればたくさんの方が訪れることになると思う。
- ・こども向け体験会に参加できるこどもと、そうでないこどもがいる。家庭環境に関わらずこどもに情報を届ける手段を考えないといけない。
- ・民間企業との連携を進めることで、より充実した取組になる。
- ・次期計画では、今あるものを組み合わせるということも大事。
- ・市全体で取り組む業務なのか、区役所で取り組む業務なのかの整理が必要。こどもの頃に育む郷土愛は、小学校レベルの小さなお寺での行事や夏祭りなどが郷土愛に繋がると思う。
- ・行政の事業や取組の情報は「広報紙」で得ることが多く、その後興味ある内容をホームページなどでチェックしている
- ・SNSと合わせて、広報紙の充実も必要である
- ・フォロワー数が増えたからといって、情報が行き届いているかわからない。ユーザー化されることが重要。

めざすべきまちの将来像【2035年（10年後）の将来像】

「恵まれた歴史と文化を誇りに、地域の力で居住の魅力と活力を生み出す堺区」

基本方針 2 人と人とのつながりが地域を支え、活力が生み出されていること

施策2-1 若い世代の地域参加を促進し、地域コミュニティを活性化します

施策2-2 多様なコミュニティ活動を応援し、人と地域の繋がりを支えます

- ・地域で何かやりたいと思うひとが、どこに相談していいのかわからないことがあるので、誰でも参入できるような仕組みがほしい。
- ・自治会で、若い世代の地域参画の取組として、イベントを開催したり、子育て世代を対象とした取組を実施している。子育て世代は、横の繋がりが強く、たくさん人が集まる。
- ・商店街の取組でも、運営側が高齢化していて対応が難しい面もあるが、若い世代が運営に関わってくれば、さらに活性化できると思う。
- ・回覧板を持ってきてくれる機会に話することで、地域で繋がりができている思う。
- ・地域だけでなく、企業や地域で働く人が、地域の担い手として参画することで、さらに地域活力が生まれる。
- ・様々な地域情報は、スーパーやドラッグストアで入手しているとの意見もあるため、日常生活でよく通う場所での情報発信は効果的であると思う。
- ・地域活動や自治会活動など活動の一覧がホームページに掲載されていると探しやすく、紹介もできる。

めざすべきまちの将来像【2035年（10年後）の将来像】

「恵まれた歴史と文化を誇りに、地域の力で居住の魅力と活力を生み出す堺区」

基本方針3 おもてなしの精神で笑顔が溢れ、誰もが堺区に満足していること

施策3-1 思いやり豊かな職員育成に努め、信頼される区役所をめざします

施策3-2 堺らしい「おもてなし」の精神で、来訪者に優しい堺区をめざします

- ・窓口サービス向上のための接遇研修等については、継続的に実施していくことが大切。個人ではなく、組織として共有していくことが大切。
- ・週単位、月単位で窓口対応の反省会を継続的に実施し、ブラッシュアップすることなど、接遇意識を保つことが大切。
- ・電子申請が主流になりつつあるが、郵便物は市民と繋がる重要なツールである。そのことを意識して届ける際は、受け取り側の立場に立って、内容のブラッシュアップ等を行ってほしい。
- ・来庁者に行き過ぎたおしつけの「おもてなし」をするのではなく、相手に満足と覚えてもらうことが大切。
- ・対話支援のスピーカーやイヤホン設置は、来庁者の利便性の向上につながったとあるが、窓口職員の負担軽減にもつながったという点も大切。利用者にとってのサービスを向上するためには、職員がイキイキ働けることも大事な視点である。

めざすべきまちの将来像【2035年（10年後）の将来像】

「恵まれた歴史と文化を誇りに、地域の力で居住の魅力と活力を生み出す堺区」

基本方針 4 すべての人が生涯にわたって、安全・安心に住み続けていること

施策4-1 多様な主体の連携を促し、強靱でしなやかな防災体制を築きます

施策4-2 地域全体での見守り活動を促進し、安心安全な堺区をめざします

- ・行政で最も大切なのは、にこやかなサービスをすることよりも、きちんとした行政サービスを届けること。安心安全の取組では、特に福祉部局と防災との連携が大切であるため、部局間連携で積極的に進めてほしい。
- ・在宅避難の話聞き大切と感じたが、災害に備えた備蓄準備や家具の固定などは高齢者に負担と感じる人が多いのではないかと感じる。
- ・防災士の資格取得に関する補助制度に関する周知や防災サポーターの育成などには、SNSでの情報発信は役立つと思う。
- ・銀行では、特殊詐欺対策として、注意喚起用マニュアルがあり、定期的に社内周知をしている。また、声掛け等で詐欺を防いだ好事例は銀行内で共有するなどし、いざということに声かけできるように準備している。
- ・安全・安心の観点でいくと、防災・防犯だけでなく、「熱中症」に対する暑さ対策も施設開放など行政の対応が必要になってくると感じる。
- ・災害応援ボランティアとして参加したところ、地域のつながりや顔の見える関係の大切さ、自治会の役割が大きかったと感じた。災害時は、やってあげる、助けてもらうの関係ではなく、自分でやってもらう、自分でできることを見つけてもらうことが大切。
- ・地震の津波指定避難所となっている施設として、受け入れする側としても、研修などが必要と感じる。

めざすべきまちの将来像【2035年（10年後）の将来像】

「恵まれた歴史と文化を誇りに、地域の力で居住の魅力と活力を生み出す堺区」

共通事項

その他

- ・一人暮らしの高齢者の見守りには、隣近所の地域の目が一番大切。人と人とのつながりが、すべての施策に繋がっていくように感じた。人のことを少しでも知ろうとすることが大切で、それでいち早く行動に移すことができるヒントになる。
- ・ヒト、モノ、お金が限られているなかで、様々な取組を掛け合わせていく発想が大切。福祉活動でも、単独で考えていくと解決が難しい案件でも、組み合わせることで様々な可能性が広がる。
- ・市役所全体の担当課が見ている地域レベルと、区役所が見ている地域レベルは異なる。区役所は、地域の細かいところをみていけばいいのではないかな。